うちなー

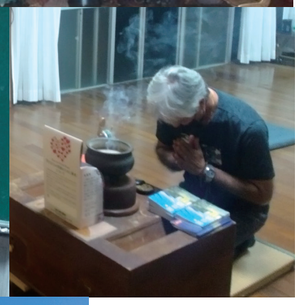
浄土真宗本願寺派
発行　本願寺沖縄別院
（浦添本願寺）

発行人　中岡順忍

〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電話（098）877-3276
ファックス（098）877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

久米島布教所 宗祖親鸞聖人報恩講法要

11月修行となって初の報恩講つとまる



（上）美しく荘厳された内陣（中左）法話をする中岡輪番（中右）門徒代表によるお焼香（下）南国の太陽に照らされる布教所の正面玄関

11月20日（日）久米島布教所にて宗祖親鸞聖人報恩講法要を修行しました。報恩講とは、浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人のご命日をご縁とし、阿弥陀さまのみ教えに出遇えたことを喜び、皆ともどもに阿弥陀さまのみ教えを聴聞させていただく法要です。

布教所では昨年まで2月第3日曜の修行でしたが、今年から11月に修行することにしました。

親鸞聖人のご命日は1月16日（旧暦の11月28日）といわれています。では、布教所ではなぜご命日と違う日に法要を行うのでしょうか。それは、ご命日には京都の西本願寺に参拝するためで、全国にある浄土真宗の寺院では1月16日以外の日に報恩講を修行します。皆さんもぜひ、1月16日には西本願寺にお参りください。

さて、久米島布教所では午後7時より法要。法要後、中岡順忍輪番から「私たちは様々な出遇いをします。その中にはきっと、良き師といえる方がいらっしゃるでしょう。学校の先生や、両親、祖父母から、多くのことを教えていただきます。皆さんも、ご恩に報謝すべくお仏壇に手を合わせられていると思います。私が、阿弥陀さまのみ教えに出遇うことができたのは、親鸞聖人が私たちにお示しくださったからです。親鸞聖人のご命日を機縁として、阿弥陀さまのみ教えに出遇えたことを一緒に喜びましょう」と法話をしました。

沖縄別院では、2023（令和5）年1月22日（日）午前10時から報恩講を本堂にて修行します。皆さんもお誘いあわせのうえ、ぜひご参拝ください。

秋季彼岸会 秋の永代経法要

9月23日（金）秋分の日。午前10時から沖縄別院本堂で「秋季彼岸会・秋の永代経法要」を、久米島布教所においては午後7時から「秋季彼岸会」をお勤めしました。

お彼岸は春と秋、年に2度。太陽が真西に沈む「春分の日」「秋分の日」をそれぞれ中日として、前後合わせて1週間がお彼岸の期間となります。

それでは、彼岸とはどういう意味なのでしょうか。仏教では、私たちのいる世界と仏さまの世界を川の両岸にたとえて、私たちの世界を「此岸」、仏さまの世界（お浄土）を「彼岸」といいます。

『仏説阿弥陀経』というお経に「これより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽という」と示されていて、太陽が真西に沈むこの時期に仏さまの世界（彼岸）を想い、仏さまに手を合わせる機会として、彼岸会をお勤めします。

沖縄別院では納骨堂に永代合葬檀を設置したことに伴い、昨年度から、春・秋の彼岸会に永代経法要を併修しています。永代経は先祖代々の皆さま方や先人の方々を偲ばさせていただく場です。この私が手を合わせる尊い仏縁に出遇わさせていただいたのも、遠く先祖の皆さま方がいらっしゃったからです。このご縁がこれからも永代に続いていくようにと、感謝の思いで手をあわさせていただきましょう。

県内の新規感染者数が減少したため「BA・5対策強化地域」の指定が解除されて初めての法要となり、久しぶりに多くの方にご参拝いただきました。皆さんには、手指消毒、検温に協力いただき、室内では換気を行いながらの法要でした。

久しぶりに多くの方が別院本堂にお参りされ、ご法話に耳をかたむけられた

別院本堂でご法話する中岡輪番

来年3月
ご本山で慶讃法要を修行

先般よりご案内の通り京都の西本願寺において、2023（令和5）年3月29日（水）～5月21日（日）、5期30日間にわたり、「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が修行されます。

浄土真宗のみ教えを説き示してくださった親鸞聖人のご誕生をお祝いし、立教開宗に感謝する法要です。沖縄別院からも団体参拝を予定しています。

全国の寺院にて
すでに修行はじまる

また、全国の教区・直轄寺院・直属寺院でも慶讃法要が予定されていて、すでに今年10月から各地域でお勤まりになっています。

沖縄別院での慶讃法要は
再来年末を予定

沖縄別院では、2024（令和6）年12月頃に慶讃法要の修行を予定しています。

あわせて協賛行事、記念誌の発刊なども検討しています。詳細は決定次第、あらためてご案内させていただきます。

皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

社会福祉協議会に寄付

10月26日（水）、沖縄別院は社会福祉事業貢献の一環として、那覇市社会福祉協議会、浦添市社会福祉協議会、久米島町社会福祉協議会に寄付を行いました。

沖縄別院では毎年、別院のある浦添市、寺務所のある那覇市・久米島町に寄付を行っています。今後も社会福祉事業の推進に貢献させていただきます。

第42回
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
沖縄別院、県内寺院でも「平和の鐘」

9月18日（日）、大型で非常に強い台風14号による豪雨の中、第42回「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京）において修行されました。

石上智康総長による「平和宣言」を別院本堂の大型モニターで視聴

「いのちの大切さ」「非戦平和の大切さ」をテーマにした作文の最優秀賞者による朗読を視聴

千鳥ヶ淵とタイミングを合わせて読経、お焼香をする

沖縄からネットで法要に参拝

新型コロナウイルス感染症の状況や、墓苑における感染対策のガイドラインに従い、沖縄別院（特区）では本年もインターネットを通じて参拝しました。

沖縄別院・沖縄県宗務特別区の「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）実践目標のひとつ「『非戦平和』悲惨な戦争からの学びと啓発」を促進させるため、一人でも多くの方にご縁にお遇いいただけるよう、別院・布教所・県内寺院では様々な工夫をしました。

別院・寺院で千鳥ヶ淵と同時進行

沖縄別院では、本堂と納骨堂の2か所にモニターを設置しました。午前中は昨年度第41回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要の映像を上映。正午から法要案内。午後0時55分から法要のライブ配信。午後1時15分には千鳥ヶ淵・全国寺院と同時に「平和の鐘」を撞打しました。

県内は台風の影響がありましたが、某寺院では安全を確保したうえで子どもたちによる「平和の鐘」を行い、世代をこえて平和への願いを全国にひろげる取り組みとなりました。

悲惨な戦争からの学びと啓発の大切さを改めて認識し、次世代に非戦平和を継承する活動を今後も促進してまいります。

右）本山が配布した「平和の鐘」を全国寺院にひろめるためのパンフレット
別院も、全国と同時に平和の鐘をつく